

実務担当者会議報告

平成 17 年度カルチャーコレクション実務担当者会議報告

日本微生物資源学会

実務担当者会議・世話人代表

中桐 昭

(独立行政法人 製品評価技術基盤機構 バイオテクノロジー本部)

平成 17 年度の実務担当者会議は、第 12 回日本微生物資源学会大会期間中の平成 17 年 6 月 20 日 13 時より 14 時 30 分まで、かずさアカデミアホール 202B 会議室において開催された。出席した実務担当者は 12 機関 31 名で、オブザーバーも含めると約 70 名が参加した。

今回の会議のテーマは、「菌株の在庫管理」とした。ふだん、菌株の保存、分譲を業務としている実務担当者にとって、菌株の保管、管理をどのように行うか、例えば、分譲標品、シード標品、永久保管標品、バックアップ標品などをどのような保存方法で、どのくらいの標品数を保管するのか、また、ロット管理を含めて標品の保管データをどのように管理するのかは、最も基本的で重要な問題である。折しも、保存機関の OECD 認証制度に関する議論もあり、これに対応した菌株の保管体制を整備する必要に迫られることもあろう、しかしそれ以前に、菌株の安全保管という意味で、この問題は各保存機関にとって、特に実務担当者にとって日々対応が迫られている問題である。そこで、物（菌株標品）の管理とデータの管理について、実務担当者間の情報交換の場を設けることを目的として、今回の会議が企画された。

会議では、5 つの機関の実務担当者から、それぞれの機関で実施されている菌株の保管、管理方法について詳しく紹介いただいた。話題提供者と演題は下記の通りである。

伊藤 純子（千葉大・真菌医学研究センター IFM）

「千葉大学真菌医学研究センターにおけるアンプルおよびストックデータ管理について」

大和田 勉（理研バイオリソースセンター JCM）

「BRC/JCM における微生物株の保存および在庫管理」

岡根 泉（製品評価技術基盤機構・生物遺伝資源部門 NBRC）

「-80℃フリーザーによる糸状菌凍結保存株の管理体制について」

永井 利郎（農業生物資源研・ジーンバンク MAFF）

「データベースを用いた在庫管理—NIAS ジーンバンクの場合—」

森 史（国立環境研・微生物系統保存施設 NIES）

「国立環境研究所 NIES コレクションにおけるバーコードを用いた凍結試料管理」

会議では、話題提供者から紹介された菌株の保管、管理方法に関して、出席者との質疑応答が活発に行われ、貴重な情報交換の場となった。会議後に多数の参加者から、ここで紹介された菌株の保管方法に関する詳細なノウハウを、会議に参加できなかった方々にもぜひ情報共有できるようにしてほしいとの要望

実務担当者会議報告

が寄せられた。そこで、5名の話題提供者に原稿執筆をお願いしたところ、快く応じてくださり、以下の文章にまとめていただいた。5名の執筆者に心から感謝申し上げるとともに、この情報が、各機関の菌株の保管、管理の改善に活用されることを期待したい。
